

大分市は、大分県のほぼ中央部にあって別府湾に臨み、温暖な気候と緑豊かな自然に恵まれた都市です。

この地は4世紀頃には豊後の国と呼ばれるようになり、12世紀末から約400年にわたり、大友氏が治めました。第21代大友宗麟の時代には、南蛮貿易が盛んとなり、豊後の国は九州における西洋文化の中心地として隆盛を極めました。

16世紀に入ると大友氏は失脚し、小藩が分立し豊後の国は分割統治されることとなりましたが、明治4年の廃藩置県により、大分市は大分県庁所在地として再び行政の中心となりました。

第二次大戦により、市内中心部は焦土と化しましたが、戦後は戦災復興により近代都市へと変貌を遂げました。1963年3月には大分市、鶴崎市、大南町、大分町、大在村及び坂ノ市町が合併しました。大分市は1964年に新産業都市に指定された後、1997年には中核市の指定を受けるなど、政令指定都市に準じた役割と権限を有する都市となりました。平成17年1月には、佐賀関町、野津原町と合併し、現在の大分市となりました。現在の大分市の人口は47万人となっています。今後も、さらに東九州の中核都市として飛躍しようとしています。